



# ももりんMIMだより

小諸養護学校  
センター的機能係  
平成30年8月1日  
No. 5

一学期が終わり、MIM-PM「よみめいじん」を4回から1回実施しました。複数回実施している学校では、クラスレポートで見るとまだまだ3rdのお子さんが多いことが気になるところも多いかと思えます。しかし、クラスレポートの右端の前回との比較の欄を見ると、一人一人のお子さんの多くは着実に点が伸びてきています。焦らずに日々の学習を積み重ねていきましょう。

## 普段の先生のご感覚とアセスメント結果とのギャップに注目

MIM-PM「よみめいじん」のクラスレポートを見ると、2ndや3rdのお子さんの数に注目しがちですが、普段の授業の様子で先生方がつかんでいるお子さんの様子とそれぞれのお子さんのステージは一致しているでしょうか。もし、普段できていそうなのに、MIM-PMの結果が低いようでしたら、授業の場面での様子をもう一度よく見てみる必要がありそうです。また、実施回数の少ない学級は実施月とステージ評価の標準得点がずれているので、標準得点表で実施月の標準得点との比較もしてみてください。次に、テスト①とテスト②の結果を見て、片方だけ落ち込んでいてステージが低くなっているお子さんにも注目しましょう。特にもう少しで1stになりそうな2ndのお子さんには、できるだけ早く1stになってもらい、2nd、3rdのお子さんへの指導に時間をかけられるようにしましょう。

## 特殊音節指導のルールの再確認の授業を計画しましょう

2回以上MIM-PMを実施した学級には、「個別の配慮計画」をお届けします。「個別の配慮計画」は、これからどのお子さんに、何を指導するのか、日常で配慮すべきことは何かなどを明確にするものです。

クラスレポートと同じように白、黄、赤のマーカーでステージが表示されます。さらに、つまづいている部分に■マークが表示されています。1stでも■マークのある子には注意が必要です。

はじめに、それぞれの項目を縦に見ます。テスト①で■マークが多くのお子さんについている項目があったら、特殊音節のルールの再確認が必要です。■マークが多い項目は1時間、少ない項目は20～30分程度で、計画しましょう。MIMの特殊音節指導を行った学級は一学期と同じ内容でもいいです。20～30分バージョンで行うときも、ルールの確認は必ず行ってください。MIMの特殊音節指導を行っていない学級は、MIMの特殊音節指導で授業をしましょう。やり方についてはご相談ください。

テスト②で■マークが多くのお子さんについていたら、①語をまとまりでとらえることが難しい、②語彙が少ない、③読むのが遅いことが考えられます。毎日の学習やゲームの積み重ねで丁寧に積み上げていきましょう。

次に、横は個々の児童の様子を見ましょう。■マークがついている項目がお子さんの苦戦している項目になります。ルールの再確認の授業の時には、できるだけ複数の先生でTTを組むようにして、■マークのお子さんへの指導が行えるように計画しましょう。

それぞれ確認をしたら、紫色の項目について、どの子にその配慮を行うかチェックをしましょう。そして、1か月後にその配慮を行っていたら、丸をして確認をしてください。

## 休み明けはアセスメント実施の説明を丁寧に

アセスメントを複数回実施している学級では、そろそろアセスメントに慣れてきたと思います。次から説明をダイジェスト版で、と考えている学級もあるかもしれません。しかし、長い休みでアセスメントのことを忘れているお子さんにとっては、ダイジェスト版での実施では本来の実力が発揮できないかもしれません。アセスメントの時には、いつもの説明のシートを使って先生が記入を実演して、簡単に確認をしてから行くと、「そうだった」と分かってアセスメントができます。慣れて多くのお子さんが分かってきても、毎回確認を行う学級もあるようです。丁寧にできるのであれば、アセスメント前に過去に行ったアセスメント問題で「プリントじゃんじゃん」を行うと、さらに安心してできると思います。

## 「みんなのこときかせて」を活用しましょう

クラスレポートのインパクトの強さに影が薄くなっているかもしれませんが、テスト②の裏にある「みんなのこと聞かせて」にも、日々の指導に生かせるヒントが隠されています。例えば、MIM-PMはできていないのに、「おずかしくなかった」「たのしかった」というお子さんはまだ自分ができていないことに気がついていません。今のうちにできるようになってしまえば、できなかったという思い出を作らずにすみます。MIM-PMができていなくて、「おずかしかった」「たのしく なかった」という

お子さんは、もうすでに読むことが大変だよというメッセージを出しています。これはもう、何としても読めるようになるように指導をする必要があります。また、MIM-PMはできているのに、「おずかしかった」「たのしく なかった」というお子さんには、その子の伸びを伝えたり、たくさんできているから大丈夫ということを伝えたりして、肯定的に自分をとらえられるようにしていくことがよいと思います。よおことの欄についても同様に考えられます。

① よむ ことが、	② よむ ことが、	③ もんだいは、	④ もんだいは、	みんなの こと きかせて
とくいで はない。	すきでは ない。	たのしく なかった。	おずかし かった。	
 	 	 	 	

## 鉛筆を正しく持っていますか？

教室に入らせていただくと、鉛筆がとても短いお子さんや使える鉛筆を1本しかもっていないお子さんに出会うことがあります。短い鉛筆を最後まで使いたいという気持ちはとてもよいことだと思います。しかし、正しく鉛筆を持つという点では、ある程度の長さがないと難しいかと思います。ある学級では「10センチ以下の鉛筆は使わない」と決めているところもあります。どうしても短い鉛筆を最後まで使いたい場合には、補助軸を使うこともよいかもしれません。補助軸には、鉛筆よりも太さが太くなるために持ちやすくなるという効果のあるものもあります。

また、鉛筆をなかなか正しく持てないお子さんには、持ち方補助具の利用もよいですが、1.3mm芯のシャープペンシルで、持つ部分がラバーになっているものもおすすめです。特に鉛筆の塗装や持ち方補助具が滑ってしまう場合に有効です。コクヨとステッドラーからでています。教室で使ってもらくと、多くのお子さんは持ち方が改善して、本人も「とても持ちやすい」と気に入ってくれます。補助軸もシャープペンシルも貸し出し用のサンプルがあります。興味のある方は試してみてください。

